

『トライ！ 看護に TBL チーム基盤型学習の基礎のキソ』

TBL を「本気」で知りたい、 使いたい人への一冊

編著：五十嵐ゆかり／著：飯田真理子，新福洋子／定価：本体 2,200 円＋税
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



みなさんは「TBL」という学習方法をご存知でしょうか。Team Based Learning の略称で、日本語では本書の副題にもあるように「チーム基盤型学習」と訳されます。本書は、まだあまりなじみのない TBL という方法を基礎から解説し、看護教育に導入するために書かれた初めての和書です。

昨今、教育現場では「いかに教えたのか？」から「いかに学んだのか？」への転換が求められ、その流れにおいてアクティブ・ラーニング(以下、AL)が大きく注目を集めています。AL は「一方的な知識伝達型講義を聴くという(受動的)学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表する等の活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う」¹⁾と定義されます。TBL は、この AL の一方法として位置づけられます。

現在、AL は政策誘導的な面もあいまって、誤解や過信を伴った拙速な導入が生じやすい状況にあります。しかしながら、というか、だからこそ、AL の方法を取り入れる際、「手段が目的化しないこと」、そして「学習目標の達成に適った方法であるかの吟味」が非常に重要です。学生のよりよい学びのために、正しい手法を知り、正しく判断して最適な AL の方法を適用する、そうした行動が私たちには必要です。その点において本書には、TBL を正しく適用できるに足る情報と姿勢が

示されています。

TBL は授業内外の個人学習あるいはグループ活動により、知識獲得とその応用を教員主導で系統的に進める学習方法であり、看護教育のように理論と実践の往還が必要な学問領域の学びに適しています。本書では、TBL 自体の全体像を把握した後に、予習資料、予習状況の確認テスト、応用演習問題などの作成方法と、その一連の授業進行のデザインの仕方、グループ編成、グループ活動のファシリテーションなど、TBL の実施の際の必須要素について学びます。また、たとえば「TBL 導入時の必須 4 原則」、実際の授業「周産期看護学」の実例などを交え掲載されており、ステップバイステップで学んでいくことができます。

また、本書には、授業初回時に学生への配付を想定した「TBL ガイド」が巻末資料として添付されています。学生に TBL の目的や価値の理解を促すしかけは、手法がまだ目新しく学生側も慣れていない段階において重要です。このように TBL を「本気で」授業に取り入れ、よりよい学びにつなげようとする姿勢自体もまた、本書から学べることだと思います。ぜひみなさんもトライしてみてください。

● 引用文献

- 1) 溝上慎一：アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換, 7, 東信堂, 2014.